

「福島原発震災に関する研究フォーラム」

2019年度の活動報告

共同世話役 清水 奈名子・高橋 若菜

宇都宮大学では、国際学部の複数名の教員を中心として、放射線被ばくに比較的脆弱とされる乳幼児・妊産婦を抱えるご家族の支援実践活動、調査活動、アドボカシー活動を展開してきました（福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト）。この活動を通じて、私たちは、決して福島に固有の局地的な危機ではないと痛感してきました。むしろ、過去の国内外の環境災害にもみられたように、犠牲を一部の社会グループに押し付ける構造的な問題と観察されます。そのような観点から、原発震災の記録を残すことは、地域社会、日本社会、そして国際社会への社会貢献であり、また後世への“社会的責務”でもあると考えるようになりました。宇都宮大学国際学部は、福島隣県に所在する数少ない人文・社会科学系学部として、福島原発事故がいかなる衝撃をコミュニティに与えたのかを程よい距離感でもって観察し記録することができる場所に立地されています。

こうした共通認識から、2016年度から、私たちは、原発震災の記録を残し、問題提起を続けることに重きを置くようになりました。福島原発震災が社会にどのような影響を及ぼしたかを構造的な視座から捉え記録し、社会に広く公表・発信していくことをめざしています。また、原発震災による被災者の困難は長期化していることをふまえ、現実の政策課題の提言につながるような研究をめざしています。

事故後9年目となる2019年度も、前年度に引き続き、学会報告、招待講演、論文等の公表を通じて、これまでの研究蓄積を社会に発信してきました。具体的には、脱原発の運動史、原発

事故に向きあってきた市民の役割とジェンダー格差、事故の健康影響、栃木県の汚染状況に関する公開セミナーを立て続けに開催しました。また栃木県北の土壌汚染被害については、農学部や被災地域の専門家と協力しつつ土壌測定を実施し、その結果を論文として公表するなど、学問分野を超えた文理融合による調査を実施し、汚染の影響が長期化していることを明らかにしました。

さらに、今年度力を入れた活動の一つは、司法への貢献でした。原発事故後9年が経った今日、復興政策は進み、日常を取り戻したように見える人も多くいます。しかし、「復興」の裏で、ふるさとが、生活が根底から奪われ、支援や賠償からこぼれ落ち、苦境にあえぐ人、命尽きた人もおられます。一方、事故責任の所在は曖昧になり原発再稼働も進んでいます。こうした現状に、日本全国で裁判が相次ぎ、刑事訴訟、民事訴訟の双方が進行中です。民事（原発損害賠償）訴訟については、19都道府県で1万人ほどの人が提訴しています。そのなかには、私たちが支援や調査を行ってきた避難者の方々も含まれていました。生活苦境に陥りながら、二度とこのような事態が繰り返されたくないと強い思いを抱き提訴する人たちの思いを幾度も聞きました。その一方、共同世話役の高橋は、原発損害賠償訴訟原告団からも相談を受け、原告の被害状況の定量的把握に乗り出すことになりました。具体的には、高橋は、小池由香新潟県立大学教授と共同で、新潟県地方裁判所、および山形県地方裁判所に対して、原発広域避難者が置かれた苦境に関する調査結果を意

見書にまとめて提出しました。

この意見書では、新潟や山形の避難者訴訟原告437世帯の陳述書を統計データに変え、定量的に被害把握を試みています。2県は福島県からの自主・母子避難が多いという特徴があり、区域内避難、区域外避難にわけて、被害の出方を比較検証しました。区域内避難世帯は、賠償や支援が比較的厚かったとはいえ、生活の質の補填には遥か及びません。生業や住まい、家財一切、生き甲斐、友人や家族との繋がりなど、先祖代々のふるさとやこれまで築き上げてきた生活基盤を失う苦しみは想像を絶します。一方区域外避難者は、また別の意味で深刻な苦悩に直面し続けています。大半が、様々に異変を感じ、考え悩み抜いた末の、そして多くは子を守るための、避難でした。生活の質を落とし、切り詰めても経済的苦境は続きます。政策への違和感や避難をめぐる自責感は高く、葛藤の連続です。避難元でも先でも不理解が絶えず、孤立感も高い状況です。貯蓄も出来ず、先行きも見えず、ストレスが持続し、精神症状を含む健康悪化が大人にも子どもにも広範にみられました。総じて、過去のいかなる災害にも類を見ない、深刻で多様な被害の実相が、量的にも確認されました。「ふるさと喪失」・「生活破壊」は、まさしく区域内外問わず進行中であることは、明らかです。それでいながら時の変化とともに、被害の周辺からの切り捨て、救済策の停止が静かに進行しています。このままいくと、人道危機的な状況が起きることが危ぶまれます。そうした事態が起きないように、最後の砦として司法が突破口を開き、子ども支援法に則った政策転換が起きることを切に願うという旨を意見書には記しました。

年度締めくくりの、毎年恒例となるシンポジウムは、まさにこの司法をテーマとして企画したものです。茨城大学、福島大学、宇都宮大学の三大学のコンソーシアム企画として開催され

た同シンポジウムには、約90名の学内外の研究者や市民が集い活発な議論がくり広げられました。

メンバー

共同世話役：清水奈名子・高橋若菜
アドバイザー：重田康博
メンバー：阪本公美子
研究協力者：石垣勝（CMPS研究員）
津田勝憲（CMPS研究員）
佐藤春菜（CMPS研究員）
関係団体：栃木避難者母の会
学外連携者：原口弥生（茨城大学）
西村淑子（群馬大学）
田口卓臣（中央大学）

研究分野と活動内容

1. 栃木県内の被災者・市民社会研究
2. 新潟県内の被災者・広域避難支援研究
3. 教育・発信

研究会・シンポジウム開催、研究調査、論文公表、学会発表、出版などを行っている。

予算

科学研究費補助金 基盤C「北関東の低認知被災地における住民活動と権利回復 一人間の安全保障論による分析一」（2016-19年度、研究代表者:清水奈名子）

科学研究費補助金 基盤C「福島近隣地域における地域再生と市民活動—宮城・茨城・栃木の相互比較研究—」（2016-20年度、研究代表者:鳴原 敦子）

科学研究費補助金 基盤B「基盤語り継ぐ存在の身体性と関係性の社会学—排除と構築のオラリティ」（2017-21年度、研究代表者:関 礼子）

科学研究費補助金 基盤B「環境国際規範のパラダイム・シフトと国内受容比較～欧州と

アジアを事例として」2018-2020年度、研究代表者:高橋若菜)

＜公開シンポジウム＞ (共同主催)

●公開シンポジウム「原発事故後9年の社会—正念場を迎えた司法」(茨城大学・福島大学・宇都宮大学研究コンソーシアム事業)

2020年2月8日(土)

第1部 基調講演 武藤類子(福島原発告訴団団長)「東電刑事裁判に関わる当事者として」、コメンテーター:蓮井誠一郎(茨城大学人文社会科学部教授)

第2部 民事訴訟の現在

除本理史(大阪市立大学経営学研究科教授)「ふるさと喪失」

高橋若菜(宇都宮大学国際学部教授)

「避難者の生活破壊」

コメンテーター:清水晶紀

(福島大学行政学類准教授)

総合司会:清水奈名子(宇都宮大学国際学部准教授)

＜公開セミナー＞

2019年7月1日(月) 公開研究会 安藤 丈将(武蔵大学社会学部)「脱原発の運動史—チェルノブイリ、福島、そしてこれから」

2019年7月21日(日) 公開授業「原発震災に向き合い続ける—震災と原発事故後に私たちは何ができるのか」:武藤類子(福島原発告訴団団長・ひだんれん共同代表)「原発とわたし」:「原発事故とジェンダー—見えないものを可視化する—」 疋田香澄(『原発事故後の子ども保養支援』(人文書院・2018)著者)

2019年10月14日(月・祝) 公開講座「原発事故と市民の健康—ICRP 新勧告案と関連データを読み解く—」:濱岡豊(慶応義塾

大学教授・原子力市民委員会第1部会メンバー)

2019年12月1日(日) 公開講座「「放射能測定マップ+読み解き集」を読み解く会 @宇都宮—栃木県の原発事故被害を知るために—」:大沼淳一(みんなのデータサイト運営委員・C—ラボ 市民放射能測定センター運営委員)

＜司法への貢献: 専門家証人＞

原発避難者新潟訴訟, 専門家証人尋問、2019年6月5日、新潟地方裁判所

＜講演・学会発表＞

清水奈名子、「戦争、大規模災害とジェンダー」2019年 権利とくらし、平和のための女性集会、2019年5月18日、全水道会館(東京都)。

清水奈名子、「原発事故後の権利回復を目指す市民運動—栃木県の事例から」日本平和学会2019年度春季研究大会 部会7、2019年6月23日、福島大学(福島県)。

清水奈名子、「東日本大震災と原発事故—女性たちの経験から学ぶ—」男女共同参画に関する市民企画講座、2019年7月20日、宇都宮市男女共同参画推進センター「アコール」(栃木県)。

清水奈名子、「3・11後の健康不安を語りやすくするために必要なこと—関東における甲状腺検査の意義と課題—」第10回東京学芸大学教育講演会、2019年7月25日、東京学芸大学(東京都)。

清水奈名子、「フクシマ原発事故とジェンダー」I女性会議神奈川本部講演会トーク・シンク・アクション、2019年9月22日、かながわ県民センター(神奈川県)。

清水奈名子、「なぜ原発事故は語りにくいのか

～女性たちの経験から学ぶ～」第87回支援者のつどいin南陽、2019年10月23日、南陽市えくぼプラザ（山形県）。

清水奈名子、「長期化する原発事故被害－女性たちの声に耳を傾ける－」日本カウンセリング学会栃木県支部会 第11回公開セミナー、2019年10月27日、とちぎ産業交流センター（栃木県）。

清水奈名子「なぜ政府は被災者を積極的に守らないのか」ふくしま30年プロジェクト 2019レクチャーシリーズ、2019年12月8日、チェンバおおまち（福島県）。

高橋若菜「原発避難生活史：生活破壊の現状と課題」広島原発避難と新潟水俣病 共同のつどい、2019年6月15日、新潟水俣病資料館。

高橋若菜「原発避難生活史：新潟県における量的・質的調査から」原発事故被災者支援兵庫弁護団 原告勉強会、2019年6月22日、神戸市教育会館203号室

高橋若菜「広域避難と自治体—新潟県における避難者受入、三点検証と避難生活調査—」日本自治学会研究会 共通論題「自治体再建の課題」、2019年11月16日、コラッセふくしま（福島県）。

高橋若菜「広域避難と自治体—新潟県における避難者受入、三点検証と避難生活調査—」栃木避難者母の会、勉強会、2019年12月2日、まちびあ（宇都宮市）。

<出版>

清水奈名子、「〈原発事故から8年〉 原発事故被害をジェンダー視点で考える 「女らしさ」「男らしさ」「優生思想」で複雑化する原発被害」『ふえみん』3216号、2019年4月。

清水奈名子「原発事故が浮き彫りにしたジェンダー差別」『I女のしんぶん』（1207）2019年5月。

清水奈名子「原発事故被害とジェンダー 低認知被災地からの報告」『We learn』2019年8月号。

清水奈名子・手塚郁夫・飯塚和也「栃木県北部の宅地敷地内における土壤中の放射性セシウム－2018年12月の調査結果報告」『宇都宮大学国際学部研究論集』第48号、39-46頁、2019年9月。

清水奈名子「原発事故の被害を、なかったことにさせないために」高木基金だより（50）2019年11月。

高橋若菜、小池由佳「原発避難生活史：山形編（1）事故から本避難に至る道：原発避難者訴訟の陳述書をもととした量的考察」『宇都宮大学国際学部研究論集』第48号、59-80頁、2019年9月。

高橋若菜、小池由佳「原発避難生活史：山形編（2）避難生活と帰還、不確かな将来：原発避難者訴訟の陳述書をもととした量的考察」『宇都宮大学国際学部研究論集』第49号、79-100頁、2020年2月（予定）。

高橋若菜、清水奈名子、濱岡豊、「福島原発震災による健康・生活影響評価調査の問題点：エビデンス構築に向けた課題」『環境経済・政策研究』第13巻第1号、掲載決定、2020年3月予定。

<主なメディア掲載>

産経新聞栃木版（同上）
下野新聞
東京新聞
新潟日報



公開シンポジウム 原発事故後9年の社会 正念場を迎えた司法

2020年 2月8日(土)
13:30 ~ 16:40
(開場 13:00)

宇都宮大学
峰キャンパス5号館
1階 5B11教室

参加費無料、お車での来場可
事前申込みは不要です

原発事故後9年が経ちました。復興政策は進み、日常を取り戻したように見える人も多くいます。しかし、「復興」の裏で、生活が根底から奪われ、支援や賠償からこぼれ落ち、苦境に陥る人、命尽きた人もおられます。その一方、事故責任の所在は曖昧になり原発再稼働も進んでいます。こうした現状に、日本全国で、裁判が提訴されました。判決、控訴もあいつぎ、長期化も見込まれます。国民の権利を守る最後の砦ともいわれる司法で、何が問われているのか、多彩な関係者が議論します。ぜひ奮ってご参加ください。

第1部 (13:30-14:50)
基調講演
**東電刑事裁判に関わる
当事者として**
武藤類子 (福島原発訴訟団团长)

コメンテーター
蓮井誠一郎 (茨城大学人文社会科学部教授)

第2部 (15:00-16:40)
**民事訴訟の現在
ふるさと喪失**
除本理史 (大阪市立大学経営学研究科教授)
避難者の生活破壊
高橋若菜 (宇都宮大学国際学部教授)

コメンテーター
清水晶紀 (福島大学行政学類准教授)

主催: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター福島原発震災に関する研究フォーラム
茨城大学・福島大学・宇都宮大学研究コンソーシアム
お問い合わせ先: 栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
028-649-5228 (月-金10:00-16:00)

司法のイメージ画像出典: <https://www.vecteezy.com/> Vectors by Vecteezy

講演者

武藤 類子

東電刑事裁判告訴団団長
ひだんれん共同代表

福島県三春町生まれ。版下職人、養護学校教員を経て、2003年より、喫茶店「燦(きらら)」を営んでいたが、2011年の原発事故によって休業を余儀なくされた。『強制起訴: あばかれた東電元最高幹部の罪 Kindle版』著者。

除本 理史

大阪市立大学大学院
経営学研究科教授
(環境経済学・環境論)

水俣病や大気汚染の被害実態を踏まえ、原発事故の補償・救済問題を研究している。

『公害から福島を考える』『原発災害はなぜ不均等な復興をもたらすのか』『原発賠償を問う』編著者。

高橋 若菜

宇都宮大学国際学部教授
(環境政治学)

環境問題の解決には社会的・生態学的弱者の視点が重要との学問的信条から、事故直後より母子避難支援や避難者調査に従事してきた。新潟県原発事故検証の一環で、避難者調査を統括し公表。新潟・山形地方裁判所等へ意見書を提出。2019年新潟地方裁判所で専門家証人として出廷。『原発避難と創発的支援』編著者。

コメンテーター

蓮井誠一郎

茨城大学
人文社会科学部
教授
(国際政治学)

事故後の茨城での市民測定支援や放射線基礎知識の勉強会などを開催。平和学会「3・11」プロジェクト委員長。

清水 晶紀

福島大学
行政政策学類准教授
(行政法・環境法)

原子力災害対策・原子力安全規制の法的統制や、福島原発事故に対する国家賠償責任について研究している。『ふくしま原子力災害からの複線型復興』編著者。

清水 奈名子

宇都宮大学
国際学部准教授
(国際関係論)

事故後の人権侵害問題について、人間の安全保障やジェンダーの視点から研究している。『原発事故被害回復の法と政策』共著者。

総合司会

プログラム

第1部

13:30 開会挨拶
13:40~14:20 基調講演
14:20~14:50 コメント・質疑応答

第2部

15:00~16:00 講演
16:00~16:20 コメントと応答
16:20~16:40 質疑応答
16:40 閉会挨拶

開会挨拶 **佐々木一隆** (宇都宮大学国際学部長) / **蓮井誠一郎** (茨城大学教授)

開会挨拶 **重田康博** (福島原発震災に関する研究フォーラムアドバイザー)

総合司会 **清水奈名子** (宇都宮大学国際学部准教授)

交通アクセス

JR「宇都宮」駅からバスで約15分、
「宇大前」「宇都宮大学前」下車、タクシー約10分。
(JR宇都宮駅より、約2km)

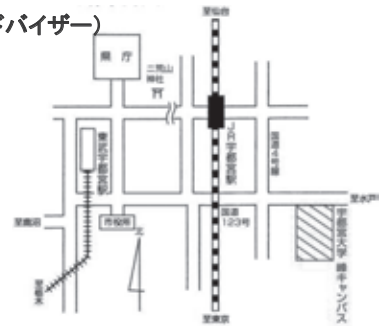
〒321-8505

栃木県宇都宮市峰町350

宇都宮大学峰キャンパス 大学会館2階 多目的ホール

問合せ先: 多文化公共圏センター

Tel: 028-649-5228(月-金10:00-16:00)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

宇都宮大学国際学部附属
多文化公共圏センター (CMPS)・福島原発震災に関する研究フォーラム主催

公開研究会のお知らせ

「脱原発の運動史ーチェルノブイリ、福島、そしてこれから」

原発は単なるエネルギー政策ではなく、「善き政治社会」、すなわち、民主主義に関わるイシュー

として立ち現れてくる。(『脱原発の運動史ーチェルノブイリ、福島、そしてこれから』「はじめに」)

『脱原発の運動史ーチェルノブイリ、福島、そしてこれから』(岩波書店、2019年4月刊行)の著者を迎え、日本における脱原発運動史を振り返りながら、「より豊かに民主主義を理解し、実践するヒント」(同書「はじめに」)について考える機会を設けます。ぜひ奮ってご参加ください。

日時: 2019年7月1日(月曜日)

16:10ー18:10 (開場は15時40分)

会場: 宇都宮大学峰キャンパス5号館A棟4階
大会議室 (廊下突きあたり)
事前予約不要・学内の駐車場利用可



お問い合わせ: 多文化公共圏センター 028-649-5228 (月~金 9:00-17:00)
清水研究室 nshimizu@cc.utsunomiya-u.ac.jp

報告者: 安藤 丈将 (あんどう たけまさ) さん 武蔵大学社会学部教員

プロフィール: 専門は政治社会学。日本の社会運動と民主主義の歴史について研究している。オーストラリア国立大学アジア太平洋研究学院修了 (Ph. D. アジア太平洋研究)。著書に『ニューレフト運動と市民社会ー「六〇年代」の思想のゆくえ』(世界思想社、2013年)などがある。

コメンテーター: 田口卓臣さん (中央大学教授) / 津田勝憲さん (CMPS 研究員・農家)

(表紙画像出典: <https://www.iwanami.co.jp/book/b450142.html> 著者と出版社の許可を得て掲載しています)
本企画は JSPS 科研費 16K12368 の助成を受けたものです

原発震災に 向き合い続ける

—震災と原発事故後に私たちは何ができるのか

東日本大震災と原発事故は、ひとり一人の暮らしと権利にどのような影響を与えてきたのでしょうか。被害に向き合う活動を続けてきたゲストスピーカーと学生の経験に学びながら、原発震災後の個人と社会の課題を考えます。

日時：7月21日（日）

13：00 – 16：00（開場は 12:30）

事前予約不要・入場無料・学内駐車場利用可能
宇都宮大学峰キャンパス 5号館 1階 5B11 教室

ゲストスピーカー

武藤類子（むとうるいこ）さん

福島原発告訴団団長・ひだんれん共同代表

疋田香澄（ひきたかすみ）さん

リフレッシュサポート代表・『原発事故後の子ども

も保養支援』（人文書院・2018年刊）著者

学生活動報告

齊田 雛（さいたひな）さん

国際学部3年生・学生団体「UP」メンバー

コメンテーター

佐藤春菜（さとうはるな）さん

多文化公共圏センター研究員・国際学部卒業生

お問い合わせ

多文化公共圏センター 028-649-5228（月～金 9：00～17：00）

清水研究室 nshimizu@cc.utsunomiya-u.ac.jp

基盤教育科目

「3.11と学問の不確かさ」

公開授業

<プログラム>

13:00-13:10

企画趣旨の説明

清水 奈名子

（国際学部准教授）

13:10-13:50

基調講演 1

「原発とわたし」

武藤類子さん

13:50-14:30

基調講演 2

「原発事故とジェンダー

～見えないものを可視化する～」

疋田香澄さん

14:30-14:45

質疑応答

休憩（10分）

14:55-15:10

学生活動報告

「学生の私から見た

震災と経験」 齊田 雛さん

15:10-15:25

コメント 佐藤春菜さん

15:25-15:40

登壇者からの応答

15:40-16:00

質疑応答

終わりの挨拶

<主催>

清水研究室

宇都宮大学国際学部附属多

文化公共圏センター・福島原

発震災に関する研究フォーラム

本企画は JSPS 科研費

16K12368 の助成を受けています

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
原発震災に関する研究フォーラム主催 公開講座

原発事故と市民の健康 —ICRP新勧告案と関連データを読み解く—

講師：濱岡豊先生（慶応大学）

2019年6月に国際放射線防護委員会(ICRP)は、東電福島原発事故を踏まえて「大規模原子力事故における人と環境の放射線防護」の新勧告案を公表しました。日本政府が採用する基準も、原則的にこの勧告に則ることになります。ところが、新勧告案では防護基準の緩和につながる改訂がなされ、また、福島県以外の被災地域における市民の声が反映されていない等の問題があります。

ICRPでは2019年10月25日を期限として、一般市民からも意見を募集しており、日本語での提出も可能です。

提出先URL: <http://www.icrp.org/consultation.asp?id=D57C344D-A250-49AE-957A-AA7EFB68A164>

本講座では、ICRP新勧告案と、関連する放射線の健康影響に関するデータを読み解きながら、原発事故後の市民の健康を守り、意見を提出するうえで必要な情報を共有することを目指します。ぜひご参加ください。

2019年10月14日(月・祝)

10:00～12:30(開場は9:30)

宇都宮大学峰キャンパス 5号館5B11教室

事前申し込み不要

参加費無料・大学内駐車場利用可

お問い合わせ先:028(649)5228

多文化公共圏センター(月～金 9:00～16:00)

共催:原子力市民委員会



主催：宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 福島原発震災に関する研究フォーラム

公開講座『放射能測定マップ+読み解き集』 を読み解く会@宇都宮

—栃木県の原発事故被害を知るために—

日時：2019年12月1日（日曜日）（12：30開場）13：00～15：30

事前予約不要・参加費無料

会場：宇都宮大学峰キャンパス5号館B棟2階 ラーニングコモンズ2
<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/convenient/campus-map.php>
（キャンパスマップ7番の建物・学内の駐車場利用可）

講師：大沼淳一さん（みんなのデータサイト運営委員・Cーラボ 市民放射能測定センター運営委員）

問い合わせ：多文化公共圏センター（月～金 9：00～16：00）028（649）5228

2011年3月に発生した東京電力福島原発事故を受けて、日本各地で立ち上がった「市民放射能測定室」のネットワーク、「みんなのデータサイト」による6年間の測定結果をまとめた『放射能測定マップ読み解き集』（みんなのデータサイト出版）が2018年11月に刊行されました。

栃木県も原発事故による放射能汚染を経験しており、長期間にわたる対策が必要です。測定と読み解き集の刊行に携わった講師をお呼びして、データの読み解き方を学ぶ会を開催します。ぜひご参加ください。

日本ジャーナリスト会議
第62回ICJ賞受賞！



上記画像は「みんなのデータサイト」
からお借りしました